(昭和30年６月15日第三種郵便物認可)　号外

LIBERAL&DEMOCRATIC 自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100－8910
東京都千代田区永田町1－11－23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
定価１部 110円(税込み)
＜毎週火曜日発行＞
自由民主党ホームページ　URL http://www.jimin.jp/

未来への責任を果たす

❶政治は政策、そして結果
国際弁護士、環境政務官、厚生労働副大臣、経済産業副大臣などの経験を活かし、政策で「経済・雇用そして生活を守り抜く」が信念です。

❷国際派
国際経済関係法や交渉、紛争解決など外交・通商が専門分野。地球温暖化防止にも積極的に取り組んでいます。

❸福祉・弱者の味方
子供の貧困対策推進法、動物愛護法改正の議員立法などを行いました。厚生労働副大臣時には子供の虐待防止を強化し、年金、医療、介護、子育て支援、福祉政策の充実に尽力しました。「政治は弱いもののためにある!」が信条です。

❹地元密着
3人の子供とともに地元さいたま市に在住。荒川治水、国道整備、通勤環境改善、駅整備、医療体制充実など、よりよいさいたまに向け結果を残し続けています。

❺未来への責任を果たす
党青年局長や超党派若者議員連盟会長として活動。新時代に向け新たな視点と行動力で政治を変えていきます。

前経済産業副大臣・衆議院議員
まきはらひでき さん

いつも大変ありがとうございます。衆議院議員　牧原秀樹です。

菅義偉内閣が発足しました。

秋田の雪深い村から上京し、段ボール工場などで働きながら学費を稼ぎ、下積みに下積みを重ねて総理大臣にまで至りました。無派閥の総理大臣は初めてのことです。これまでにふるさと納税や外国人訪日客の増加、利水ダムの治水利用など、縦割りや前例主義を乗り越えて様々な実績を残してきた菅総理は、真っ先に縦割りや悪しき前例主義を正し、デジタル化を進めるなどの優先事項も示されました。牧原も菅総理と行動を共にしてきており、無派閥、二世議員ではない「たたきあげ」の立場でこうした政策の立案や実行を支えてきましたし、これからも推進します。

そして、皆様のお蔭様をもちまして、厚生労働副大臣に続き、経済産業副大臣の大任を終えることができました。国民生活に最も密接に関わる二つの省庁の副大臣を拝命したのは私が史上初のことであり、コロナ禍の対応においても両省庁は牧原が間に入ってこれまでになく連携してマスク等の医療物資の調達、国内生産の増強、そして雇用を守る政策を推進して参りました。今後とも、経済と厚生労働分野はもちろんのこと、「何よりも政策、実行、そして結果」を信念として貫いて活動します。

「経済、雇用、そして生活を守り」抜き、子どもや動物、自然政策なども推進して「笑顔と優しさ溢れる社会」を作り、「未来への責任」を果たして参りますので、さいたまの地元の皆様のご指導ご支援の程、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

衆議院議員　牧原秀樹

まきはらひでき事務所
〒338-0001　さいたま市中央区上落合2-1-24-5階
TEL.048-854-0808　FAX.048-858-2635
http://www.hmacky.net/　Email: office@hmacky.net

牧原秀樹プロフィール　衆議院議員4期目　昭和46年6月4日生まれ
麻布高、東京大学法学部卒業後、渉外弁護士として数多く国際案件に携わる。ジョージタウン大ロースクール国際法学科留学。国際弁護士(日本・ニューヨーク州)。平成15年経済産業省入省。平成17年埼玉5区より初出馬。平成21年東日本大震災により親や家を失った子供たちの支援団体を設立、活動。 平成24年衆院選にて再選。以降、環境大臣政務官、党青年局長、議院運営委員会理事、厚生労働副大臣、衆議院内閣委員長、経済産業副大臣を歴任。

まきはらひでき 国政4期目（2017年10月～）活動報告

厚生労働副大臣

働き方改革を推進

厚生労働副大臣時代は何よりも「働き方改革」です。私自身障がいある身内を抱え、大宮北養護学校（現特別支援学校）の皆様との交流、また地元の埼玉精神神経センターの丸木理事長がALSの会を一生懸命されていることから患者様の友人もでき、多くのことを教わってきました。だから、障がいがあろうと病気があろうと、女性だろうと男性だろうと、若者だろうとご高齢であろうと、とにかくみんなが仕事をしたい人は仕事ができ、その一つしかない個性や能力を発揮して活躍できる社会を作りたいと思ってきました。今後とも「働き方改革」は続けていきます。

児童虐待防止に向けて

子供の貧困対策議員連盟を立ち上げるなど、未来がある子どもたちの幸せを守りたい、というのは牧原の大きなテーマです。野田市や目黒区における悲惨な児童虐待事件を受け、眞鍋かおりさんや犬山紙乃さんなどお母さん芸能人の方から多くのメッセージメールが添付された要望書を受け、しつけ体罰も禁止するなど大幅な児童虐待防止政策を進めました。福祉制度の充実に取り組みます。

年金・医療・介護の充実

年金担当として、日本年金機構を訪問し、水島理事長を始め理事や厚生労働省の担当者とも何度も会議を重ねました。我が国があの悲惨な戦争から今日の日本にまで立ち直ってきたのは、まさに私よりもご年配の皆様のおかげです。「世界一長生きが幸せな国」は、牧原が 2017 年選挙で掲げたテーマであり、年金の安定はその最たるものです。今後とも年金、医療、介護などの社会保障制度充実は最優先課題として取り組みます。

衆議院内閣委員会委員長

内閣委員会委員長としての責務を果たす

常任委員会の筆頭委員会委員長として、とにかく与野党の信頼を勝ち得つつ、円満な議事運営を心掛けました。平成から令和に変わる様々な関係法、自分自身が中心となった子どもの貧困対策法、そして3歳から5歳までの幼児教育・保育などを無償化する子ども子育て支援法は、衆議院では牧原の下で審議をし、成立の報告者となりました。この一年では全ての国会議員の中で最も長い時間国会の委員会に参加した議員であったと言われました。

国会のペーパーレス化、初タブレット使用

国会改革の必要性を何度も訴えてきた立場として、委員長としてできる改革に取り組みました。その最たるものが、初めて質問者、答弁者、そして委員長がデジタル機器を用いることを認めた委員会運営の実施でした。伝統を崩すと反発もものすごかったのですが、最後は押し切りました。十分な事前の質問通告、丁寧な答弁や資料提出、答弁が終わった者の速やかな退出など、牧原委員会は未来を先取りしたものとして、与野党超えての評価を受けました。

平成から令和へ。歴史的瞬間でした

平成から令和に変わる大事な年になりました。退位礼正殿の儀、即位後朝見の儀には内閣委員長として参列致しました。特に、退位礼正殿の儀では、予定にはなかったのですが、上皇皇太后両陛下が退室前に深々とご一礼をされたことが本当に印象的で涙が止まりませんでした。激動だった「平成」という時代の終わりを強く感じた瞬間でした。令和は新天皇陛下のもと素晴しい時代にしたいと思いました。

経済産業副大臣

コロナ禍での経済対策に全力を尽くす

コロナ禍は2020年4月-6月期のGDPがマイナス28.1%とリーマンショックをはるかに上回る過去最悪の落ち込みになりました。しかし、派遣村ができるなど失業や就職できない状況が溢れたあの事態を2度と繰り返さないとの思いで再選を果たした牧原は、絶対に「経済、雇用、生活を守り抜く」との思いで総額234.2兆円の経済対策の先頭に立ちました。リーマンショックの時に比すれば今のところ倒産や失業もはるかに抑え込んでおりますが、今後経済再生に向けたさらなる取り組みが重要です。

業種を超えた雇用マッチング・省庁横断の副大臣会合を立ち上げ

全国における雇用マッチングや副大臣会合立ち上げ　国会議員では初めて厚生労働副大臣と経済産業副大臣の両方を経験した立場から、コロナ禍における雇用対策の重要性を2月には訴え、全国の労働局、経産局、そして都道府県が中心となり、さらに関係者が雇用対策で協力し合う体制づくりを進めました。特に業種を超えたマッチングはサイトもできるなど進んでいます。また、省庁横断の雇用を守るための副大臣会合も立ち上げ、各省とも所管業界と連携し、雇用情報の連携強化や役所や関係団体における雇用増加も図っています。

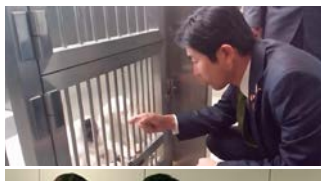
世界の中で活躍できる政治家

もともと牧原は弁護士、ニューヨーク州弁護士として国際交渉を得意とし、特に経済分野、通商分野は専門でした。WTO（世界貿易機関）では日本人初のインターン生にもなり、帰国後は経済産業省で通商紛争、通商交渉に当たっていました。副大臣就任後、ダボス会議の政府代表、RCEP交渉の難題解決、WTO交渉、鉄鋼交渉、デジタル大臣会合など様々な国際会議をこなし各国大臣とは通訳を交えず信頼を深めました。今後とも世界から「畏怖される」日本の外交、国際経済交渉を担っていきます。

議員連盟活動

動物愛護活動

もともと小さいころから犬を飼い、生き物を大切にと両親にも教わった牧原は、環境政務官の時に17万頭以上いた殺処分をなくしたい、との思いで「人と動物が共に幸せに暮らすプロジェクト」牧原プランを発表し、15万頭近く殺処分数は減りました。昨年、動物愛護法の大改正を超党派のリーダーとしてまとめあげ、今年動物の飼養管理基準を小泉環境大臣とともに決めています。今後も、弱いものにも優しい社会を作りたい、との思いで取り組みます。



子どもたちの幸せのために

こどもは親を選ぶことはできません。だから、生まれた環境による乗り越えられないような機会の不平等を失くしたいと思っています。特に、子どもの貧困は撲滅すべき、との思いで議員連盟の設立メンバーとなり、子どもの貧困対策法を超党派の事務局長として取りまとめ、衆参とも全会一致で成立させました。今後ともこどもたちの幸せ、そして未来のために活動します。「未来への責任」という牧原のスローガンには今が良ければ（選挙にさえ勝てば）それでよし、という永田町の軽々しい雰囲気に抵抗し、未来への責任を果たしたいとの思いが込められています。

未来へ向けた活動「若者政策推進議員連盟」

40歳以下の超党派の議員（50歳以上でも心が若手だと思う人はOK）たちで若者政策推進議員連盟を立ち上げ、初代の会長になりました。ここでは一切の党利党略的発想を禁止し、とにかく未来志向の活動をしています。全国300以上の若者団体と協力し、若者の政治参加を促すべく被選挙権年齢の引き下げや供託金の引き下げ、インターネット投票導入などを提言し、議員立法も作成しています。私たちは、未来に不安と責任感を抱いています。だからこそ超党派でしっかりと未来政策に取り組みます。

政策のポイント

縦割りの排除（行政改革）

菅総理は官房長官として様々改革を主導してきました。たとえば、今まで豪雨等の治水は国土交通省所管のダムのみでしたが、経産省所管の発電用ダムや農水省所管の農業用ダムも事前放水し、治水利用できるようにしました。このように縦割りが主原因となる弊害を排斥し、できなかったことをできるようにします。

携帯電話料金

世界と比較して生活費が高い分野については全面的に見直します。その代表例が携帯電話料金です。今から2年前に菅総理は4割安くできるのでは、と指摘し、その後携帯電話各会社の様々な努力が促されました。今後とも携帯電話料金をはじめ、国民生活の経常経費について全面的に見直し、安くできるものは安くします。

デジタル化

一人10万円の給付や持続化給付金においても、改めてデジタル化の遅れがあまりに弊害になっていることが認識されました。すべての行政手続きをデジタルでできるようにするとともに、たとえば様々な申請でいくつも窓口を渡り歩く事がないように一本化、効率化、簡便化を進めます。